

第 28 回移住者インタビュー

『自分らしさを貫いた答えに、  
「いいね」ボタンを押してくれる人はきっといる』

株式会社スリーピークス 宮川 広平 さん



宮川 広平 (みやかわ こうへい) さん  
京都府出身  
株式会社スリーピークス

インタビュー実施日：2022年2月7日

### —ご出身はどちらでしょうか。

生まれも育ちも京都府です。

### —移住をしようと思ったきっかけを教えてください。

きっかけは、Venture For Japan (VFJ) という人材斡旋事業です。宮城県女川町にある NPO 法人アスヘノキボウで行っている、20 代を対象に、経営者の下で 2 年間働きながら起業や経営のことを学ぶビジネスプログラムなんですけど、その事業では、東北を中心にいくつもの企業が求人を出していて、その中にスリーピークスがありました。それで、個人的にワインが好きだったので、その理由からスリーピークスで 2 年間頑張ってみようと思えました。

スリーピークス代表の及川さんと何度かお話していくうちに、「こいいいなあ」と思うようになったんですけど、及川さんが「実際に大船渡の町を見るまでは（移住は）あまり決めない方がいい」というスタンスだったので、大船渡がどういう町かちゃんと自分の目で見た方がいいと思い、2020 年 12 月上旬に初めて大船渡を訪れました。それで、町の様子を見て、雰囲気を感じて、実際にここでちゃんと暮らしていけるかどうかを自分なりに考えた結果、「自分はこの町を好きになるな」という確信が持てました。その旨を及川さんにお伝えしたら、「うちでよかったら来ても大丈夫だよ」と言っていただけたので、晴れてスリーピークスへの就職が決まりました。

### —スリーピークスがあつての移住というわけですね。

はい。移住先を大船渡に決めたのも、スリーピークスが大船渡にあったからです。自分の移住の中心にはスリーピークスがあります。でも、スリーピークスもそうなんですけど、及川さんの存在が大きかったというのもありますね。

初めて及川さんとお会いしたのは、オンラインでお話したときです。それから、及川さんが出張で京都に来られた際に、お昼ご飯を御一緒させていただきました。そのときに「今度、大船渡に来てみないか」と言ってくださり、2020 年 12 月に大船渡に行きました。

及川さんは、自分が今まで就職活動をしてきた中で、あまり上手く表現できなかった自分の思いや考えに対して、真摯に耳を傾けて「そうだよ」と大事に聞いてくださいました。1 年間の就職活動の中で、自分のやりたいことがいろいろあつて、いろんな会社を受けたんですけど、あんまりご縁はありませんでした。それって結局、自分のやりたいことや思いを形にできるほど明確ではなく、自分のことを理解していなかったからなんだと、今になって思います。そんな自分に対し、及川さんは優しく肯定してくださり、自分の言葉を大事に聞いてくださりました。そのときの空気感は今でもよく覚えています。新卒で入社して、最初に誰の下で働くかによって自分の働き方が決まる、という話はよく耳にはしていたんですけど、まさしくそうだなと思います。自分にとって、及川さんはものすごく大きな影響を与えてくれる存在です。

### —もともと起業や経営の分野に興味があつたのですか。

いえ、そんなに興味はなかったですね。ただ、どこに行くにしても何をやるにしてもお金は付きまってくるものなので、自分のやりたいことが特にならなければ、とりあえずお金がどういふ風に生み出されるのか、モノの流れはどういふ風になっているのか、働くための基盤・足腰

など、そういうのを見て知っておいた方がいいのかなと思い、VFJに挑戦しました。

ちなみに、VFJ自体は、就職活動中に活用していたPeatix（様々なイベントの情報を発信するオンライン上の掲示板）で知りました。何か面白いイベントはないかというところを探していたところに、20代若者に向けて「キャリアをどう作っていききたいか」みたいなことが書かれていて、それを通じてVFJを知りました。

### —移住をされるまでにどのような準備をされてきましたか。

心の準備がメインで、物的な準備だと、「アパートどうするかな」などを考えていました。家具もどうしようとか全く考えなかったです、何とでもなると思っていたので。車についても、会社の方から、社用車を使わせていただけることになったので、困ることはなかったですが、Wi-Fi環境の整備は少し大変でしたね。

心の準備については、心構えというか、「何で自分は船渡に行くとしたのか」というのを毎日考えながら生活していました。というのも、やっぱり他の友達はみんな、東京や大阪、名古屋や福岡に就職することが決まって、そういった人たちが多く、自分は新卒で地方に移住する。こういう人ってなかなかいないと思うんですよ。自分が、ある種マイノリティな選択肢を取ることに対して、少なからず不安はありました。でも、不安を感じるということは、他の人と比べて自分はどうかと考えていることだと思ったので、「自分がなぜその選択肢にしたのか」というのを常に自分自身に説いていたら、「とりあえず、やってみよう！」という風に気持ちを転換することができました。精神安定じゃないですけど、「自分で決めた」という気持ちは自ずと意思を強くしてくれました。

### —移住したのはいつからですか。

2021年4月です。ですので、まだ1年も経っていないんですよ。新卒の採用と同じような時期と思っていただければ。

### —現在の住居について教えてください。

赤崎町にあるアパートで生活しています。移住する前に代表に紹介していただきました。職場へも通いやすいですし、近くにスーパーもあるのでいいですね。

### —地域内での移動手段について教えてください。

普段は車（社用車）を使用していますが、帰省の際はBRTを使用することもあります。車の運転について思うことは、やっぱり雪が怖いですね。実家がある地域は、全然雪が降らないんですよ。1年に1回程度しか降りませんし、降ったとしても牡丹雪なので積もることもないんですよ。だから、雪道の運転の経験が全くありません。それに加え、去年（2021年）の3月に免許を取得したばかりの初心者なんですよ。だから、余計恐ろしいですよ。まあ百歩譲って降ってもいいですけど、凍らないでほしいですね。それほど寒いってことなんですよ。でも、「最高気温は0℃」って聞いて、「最高気温とは？」ってなりました。



〈真剣な眼差しで作業する宮川さん〉

—大船渡市で生活してみて何か感じたことはありますか。

海と山と川がこれだけコンパクトにまとまっているから、自然の景観が好きです。自然と町のコントラストが綺麗です。特に、セブンイレブン大船渡お魚センター店から坂を下りていくときに見える景色、山があり海もあり、湾の形に沿って大船渡の町並が形成されているところを見ると、本当に綺麗だなと思います。京都の実家はだいたい内陸側にあるので、海はあまり見てきませんでした。ですので、その分、大船渡の海を見ると綺麗だなと思います。

大船渡の人たちは、物腰が柔らかいと感じます。スリーピークスのお客さんとかとも、フレンドリーにお話しさせていただいていると思います。閉鎖的な感じはあまりしませんね。

—大船渡市に移住してから印象深かった経験や思い出はありますか。

プライベートの話になるんですけど、昨年（2021年）の11月に、宮城県気仙沼市で行われた「気仙沼スローフェスタ 2021」（気仙沼の食や文化を堪能しながら、スローフードやスローシティを楽しむイベント）。10代後半から20代中盤くらいまでの現地の若者や移住者が中心になり、カキやホタテなどの浜焼きを提供するお店が出品されるという話を聞き、そこに参加しました。

イベント後、そのイベントで生み出した利益で、その日の夜にみんなで打ち上げをしました。そのときに、「ここはこうしていたらもっと動けていたよね」とか「こうしていたらお客さんを待たせずに済んだよね」とか「でもここの動きはすごいよかったよね」とか、お酒を飲みながらみ

んなで語り合ったんですが、その時間がとても印象に残っています。ここにいる人たちとのつながりは、自分にとって財産のようなものだと思います。その時間を過ごしていました。「こうすればよかった」という話から、「自分だったらこうしていた」というところまで、みんなが自分事として落とし込んで考えていたので、あの日の反省会はすごい豊かな時間でした。

それから、その日の翌朝、ちょっと二日酔いの状態で大谷海岸の道の駅に行って、コーヒーを飲みながらみんなで朝日を見ました。日の光が海に反射してすごいキラキラしていて、それを見ながら、「これからどんな面白いことをしていこうか」「こういうこともしてみたい」と、みんなが素直に言い合えたのもとても印象に残っています。目の前の出会いや一緒に楽しいことができるかもしれないというワクワク。そのために、自分のありたい姿を考えるワクワク。この気持ちを共有している人たちとの間から、自身の生き方や普段の仕事ぶりを考えられたのが嬉しかったです。

### —株式会社スリーピークスでの活動について教えてください。

基本的に何でもやっているという感じです。醸造作業、草刈りといった農作業、商品のラベル貼り、営業、メールマガジンの作成や配信、接客、配達などなど、幅広く活動しています。作業は大変ですが、楽しいです。

及川さんは、「仕事の大小ではなく、『仕事の意味』を軸に動けたらいいよね」ということをよく仰っています。例えば、「タンクの蓋を閉めるか閉めないか」ということに関して、蓋を閉めるか閉めないかだけの違いなので、その大切さを明確にイメージしづらいですよ。そこで、「蓋を閉めることによって何がどう起きるか」「蓋を閉めないことによって何がどう起きるか」という「意味」の話になると、また別の見え方が出てきます。その仕事の「意味」を見出すことは、自分がその仕事をどのように考えているかということであると、いつも及川さんからアドバイスをいただいています。ですので、それを軸に考えることで、草刈りにしても何に関しても、仕事への向き合い方がちょっと違ってきます。そこまで考えて動けている日の仕事は楽しいし、充実していると感じます。アドレナリンも出ますね。

やっぱり仕事をしているときに一番充実しているなと思います。仕事っていう時間の枠を作ってもらっていて、その限られた時間をどう過ごすかが重要だと思っているので、仕事の時間がすごく自分自身と向き合いやすいし、今の自分がよくわかると思います。「これができて、これはできない、でもこれはできるようになってきている」みたいな。「自分は前に進んでいる！」って思います。

### —休みの日は何をされていますか。

お酒を飲んでいることが多いですね。基本的にはワインかシードルを飲むようにしています。それで、「この料理とこのお酒を合わせたらどうなるんだろう」という感じで、勉強も兼ねて飲むようにしています。そうすることで、お客さんに紹介するのが楽しくなるし、会社のことも好きになるんですよね。お酒も美味しいので一石二鳥です。

あとは、人と出かけることもあります。先日は、根本大介さん（第26回移住者インタビュー）にお誘いいただき、初めてシカの狩猟に参加しました。別に猟銃でシカを撃ったわけではなく、勢子と呼ばれる、隊列を組んでシカを追い詰める役割があって、それに参加させていただきました。

た。疲れましたが、すごい楽しかったです。いい経験になりました。今後も、機会があれば狩猟に参加してみたいですね。



〈ワイナリー内での作業の様子〉

ーワインが好きという理由でスリーピークスを選んだと仰っていましたが、ワインを好きになったきっかけは何ですか。

留学の経験と、僕の記憶に残っている食体験が大きなきっかけです。

留学について、大学生の頃、カリフォルニアに留学していた時期がありました。留学中、ナパという町に行ったんですが、そこはワインで有名な町で、「ナパワイン」という名前があるぐらい有名なんですよね。ワイナリーが豊富にあって、ブドウ畑もずっと広がっているような町です。そのような場所に留学していたということもあって、ワインを飲む機会が多かったんです。片手にボトルを持ってみんなで飲みながら歩いたり、毎日飲み会をしていたりと、そこでワインを飲むことが普通というか、当たり前のことだったので、それで僕もワインを飲むようになり、好きになりました。

食体験については、今まで「あのときの食事がよかったな」と振り返ると、そこで出ていたお酒って割とワインが多かったんですよね。ワインってやっぱり、マリアージュという言葉があるくらい、ワイン単体というより、ワインと食事の組み合わせを重視する文化というか、考え方があるんですよ。学生のとくに、赤ワインと一緒にアボカドと半熟卵のサラダを食べたことがあ

るんですけど、それが美味しかったんです。今でもそのときのことをよく覚えていて、どのお店で食べたのかも覚えているくらいです。他にも、食事のときの楽しかった記憶が頭の中に残っていることが多く、食体験の中にワインという存在が根強くあるんです。日本酒や焼酎も飲むんですけど、割合としてはワインの方が多く、自分にとってワインは身近な存在です。この二つが、自分がワインを好きになった大きなきっかけです。

#### —宮川さんの思う、大船渡市のおすすめスポットを教えてください。

やはり、先程も言った、セブンイレブン大船渡お魚センター店の坂を下りたところから見える大船渡湾と大船渡の町並ですかね。

それから、碇石海岸のインターチェンジで、ぐるっと一周回るとあるんですけど、そこから見える大船渡湾の景色もめちゃくちゃ良いです。天気良ければ、太陽の光が道のようになって太平洋を照らしていて、本当に綺麗だと思います。自然の中を、一筋の光が抜けている画が素晴らしいと思います。それに、その景色は車の運転中にチラッと見ることが多くて、それで逆に印象に残っているのかもしれないです。ずっと見ているよりかは一瞬目にするだけで、「また見てみたい」という気持ちになる、そういう刹那的な要素で印象に残りやすいのかなと思いますね。

あとは、大船渡温泉もおすすめです。足湯に浸かったことがあるんですが、びっくりするぐらい気持ちよかったです。海の景色を眺めながら温泉に浸かるのも最高です。

#### —今後活動していく上での目標を教えてください。

先程の話にもなりますが、仕事においても日常生活においても、「意味」を軸に考えて動けるような人になりたいです。これは、割と短期的な目標かなと思っています。というのも、VFJが2年間のビジネスプログラムなので、スリーピークスとは2年の契約になっているんです。来年の4月にはスリーピークスを卒業する予定で、それまでの間に、どういう風に前に進んでいくかって考えたとき、やっぱり「意味」を軸に考えて動くことが自分にとって大きいことだと思います。

スリーピークスを卒業した後のビジョンは、今のところまだ明確には決まっていないです。ただ、いくつか考えはあって、最近、デジタル化と言われているようにテクノロジー関係にも興味があります。金融や建築、教育といった業界、脱ハンコなど働き方に加えて、営業などの職種といった分野もデジタル化によって変化しているので、自分のやりたいことの要素としてデジタル・テクノロジーを掛け合わせられたら、引き出しを増やしやすくなるのかなと思っています。



〈宮川さんに影響を与えるスリーピークス代表・及川氏との作業〉

また、個人事業主のような働き方に挑戦してみたいという願望はあります。というのも、大船渡に移住してから、他の移住者の方々とたくさん話をしました。それぞれの移住者でそれぞれの目的、やりたいことがある。いろいろな話を聞いて、みんなのやりたいことをプロジェクトベースで自由に形にしていけたら楽しそうだなと思ったんですよね。という意味で個人事業主っていう言い方をしました。

他の移住者の皆さんの移住目的や人物背景を聞いてみると、やっぱりどの人も社会課題を側面に帯びていることがわかりました。自分としても、今までの夢には、常に社会課題が隣り合わせにあって、社会課題を軸に考え、「自分はどうしていけばいいか」「自分はどうありたいか」ということをずっと考えてきたので、皆さんの話に共感する部分とか、自分とつなげやすい部分が多くありました。ですので、自分たちのやりたいことや新しいことをするときのワクワクした気持ちを、みんなで一緒に分かち合いながら形にしていけたら、自分はきっと幸せだろうなと思っています。そういう生き方も一つの選択肢として目指しています。

それから、大船渡は、陸前高田や気仙沼と比べて、移住者の支援や受入体制という点では、まだ途上段階だなと正直思います。他の市では、NPO 法人などの民間団体と行政がしっかりコミュニケーションを取りながらやっているという印象を受けます。大船渡にもそういう団体が欲あれば嬉しいなと思っていました。僕が知らない可能性も十分ありますが、NPO 法人とまではいなくてもいいので、移住者の人たちも、そうでない人たちも気軽に集まれるような場所、「ここに行



けば面白い人に会えるよ」っていう場所が一つでもあればいいなと思いますし、そんな場作りの動きがあるなら、ぜひ関わってみたいです。将来的にそういう場所を作っていけたらいいなとも思っています。

### 一移住しようと考えている人に対してメッセージをお願いします。

自分が一生懸命考え抜いて踏み出した一步を、地元の人たちはちゃんと受け止めてくれる、ということ伝えたいです。社会の状況とか、周りの人たちの意見とかがどうこうではなく、自分自身がどう生きたいかというのを考え抜いた延長に、「地方に行く」という選択肢を見つけ出したのなら、どうしてその選択肢になり得たのかを自分なりにさらに考える。自分なりに頑張って考えて、一つの答えを導き出したとき、その人は移住をする意志を持った顔つきになるというか、雰囲気を持つと思うんですよ。「こういうことをするために地方に移住しました」と確固たる意志を持っている人は、そうでない人と比べてどこか表情が違う気がします。そうして、一生懸命考えて導き出した答えに対して、地元の人たちは寛大に受け入れ、地域に迎え入れてくれます。そういった方々とのご縁は、きっとどこに行ってもあると思うし、自分自身もそうするだろうと思います。

これは、僕自身の経験から言えることです。僕、大学3年のときに、別の大学に編入しまして。編入先の大学のキャンパスが小さく、学生同士のコミュニティが既に出来上がっていました。途中から入っている身なので、肩身狭いかなと考えていましたが、自分の話を聞いてくれる人がたくさんいました。やっぱりそういう人はどこにでもいるんだなと感じました。カリフォルニアへの留学でもそうでしたし、今回の移住でもそうでした。他人らしさとか世間体らしさとかではなく、自分らしさを貫いた答えに対して、「いいね」ボタンを押してくれる人はきっといるということをお忘れないうちにしたいと思います。

【スリーピークス 公式サイト】

[”Dry シールドで「やさしくなれる」時間を”スリーピークスイナリー \(3peaks.jp\)](https://3peaks.jp)